

[平成19年度普及に移す技術]

[技術名] ハウス栽培イチジク「榊井ドーフィン」の収穫適期判定方法

[要約] 収穫直前に急激に熟し、収穫後の日持ちが短いイチジク品種「榊井ドーフィン」の収穫適期は、福井農試で作成したカラーチャートを利用した果皮色、果実着色面積、果実硬度により把握できる。

[キーワード] ハウス栽培イチジク、榊井ドーフィン、適期収穫、カラーチャート

[担当] 福井農試・園芸・バイテク部・果樹研究グループ、嶺南振興局農業経営支援部

[連絡先] 0776-54-5100 h-taniguchi-ii@pref.fukui.lg.jp

[背景・ねらい]

イチジクは収穫後の日持ちが短いため適期に収穫することが重要であるが、収穫直前に急激に熟するため収穫適期を逃しやすい。このため、「榊井ドーフィン」栽培で、生産者が利用しやすい収穫適期判断技術を確立する。

[技術の内容・特徴]

1. イチジク「榊井ドーフィン」の生果用収穫適期は果皮色、果実着色面積、果実硬度により把握することができる。その条件は時期により異なり(表1)、収穫初期(8月)から収穫後期(10月)にかけて、果皮色は濃くなり、果実着色面積は多くなり、果肉は硬くなる(表2)。

表1 収穫適期の目安

	果皮色	果実の軟らかさ	注意点
8月	果皮色の濃淡ではなく、果実全面に着色(R1以上)している	軟らかいもの (果実硬度0.3kg以下)	1日で急激に軟化するので、取り遅れに注意すること
	着色不良で緑色部分が多い果実は、G2以上での収穫を目標とする		色が極端に薄いあるいは着色する前に柔らかくなる場合は、枝密度等日照条件が悪いので、適正管理を行う*
9月	基本的には8月に準じる(R1~2以上で収穫)	やや軟らかいもの (果実硬度0.5kg以下)	天候によって着色程度等が変化することを考慮する
10月	果実全面に着色し、果皮色も十分に濃いもの(R3程度)	やや硬くても収穫可能 (果実硬度0.7kg以下)	*と同じ

2. 果皮色は新たに農試で作成したカラーチャート(写真1)を利用することで測定できる。

[技術の活用面・留意点]

1. カラーチャート使用上の注意

直射日光の当たらない明るい日陰で比色判定を行う。

測定位置は果皮(写真2)の陽光面を Red(R1~R4)で行い、緑色部分の測定は任意の位置を Green(G1~G3)で測定する。

色番号をそのまま果皮色値とするが、中間色には0.5を与える。

ハウス栽培イチジクの「榊井ドーフィン」用カラーチャートとして作成したが、露地栽培にも使用可能である。

2. 収穫時刻は果実内部温度の低い早朝に行う(図1)。

[普及計画]

普及目標: 適期適熟収穫の実施 100%

普及対象: イチジク生産者

普及に向けた対応: カラーチャート、使用上の注意書の配布

[具体的データ]

表2 収穫時期別の果実品質

調査日	果重 (g)	果実着色率 (%)	E値 ^z	硬度 ^y (kg)	糖度 (Brix%)	pH
8月14日	108.0	82.0	37.4	0.14	14.7	5.7
9月15日	66.6	81.9	41.6	0.28	14.0	5.0
10月13日	78.0	86.1	30.4	0.47	15.6	5.3

z: 色彩色差計L*a*b*の $\sqrt{L^{*2}+a^{*2}+b^{*2}}$ (値が小さい方が濃い)

y: 果実硬度計(KM-1)で先端を直径5mm円柱型を使用



	HV/C
G 1	3.0GY8.0/9.0
G 2	1.0GY8.5/6.5
G 3	7.0Y9.0/7.5
R 1	7.0R4.0/7.0
R 2	4.0R3.0/12.0
R 3	1.0R2.5/6.0
R 4	4.0R2.0/2.0

写真1 農試作成カラーチャート

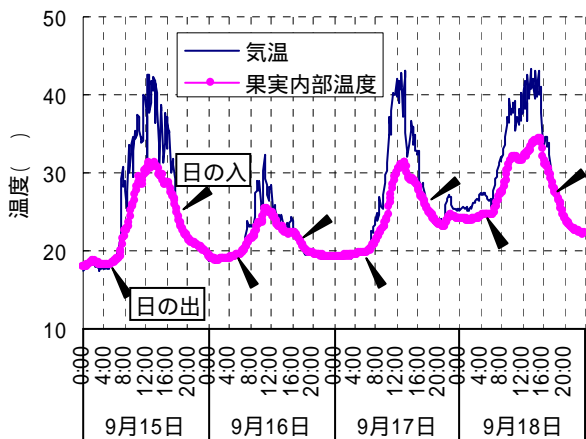


図1 イチジク果実温度の時間別推移



写真2 カラーチャートの測定位置

[その他]

研究課題名: ハウスイチジクの適期収穫技術と着色向上対策

研究期間: 2006年度

研究担当者: 谷口弘行、長澤清孝、坂川和也